

第2回 新幹線のバリアフリー ソフト・ハード対策検討WG（合同開催）

結果概要

日 時： 令和2年2月7日(金) 14:00～16:00

場 所： 中央合同庁舎2号館低層棟共用会議室2AB

○各障害者団体からの主な意見は以下の通り。

<ソフト>

- ・切符の予約・購入と、介助の申込みは分けていただきたい。
- ・車椅子使用者であるということだけで全て一律の対応となってしまう。
- ・(ウェブ申込を含めて) 介助は必要な場合のみ申込みができればよい。
- ・近畿日本鉄道のウェブ予約は、現実的ですがよくよい。一方で、車椅子を使用していない方が買ってしまうという不安もあるが、そこにこだわってしまうと何も進まない。
- ・ウェブ予約の際、外国人旅行者や一時的に車椅子を使用している人が利用できるように、手帳の要件などを求めずに買えるようにすることが大切。
- ・ウェブ予約について、警告が出ても消してしまう人もいると思う。本当に車椅子が必要な方が利用できるように、(申込みフォームを)ある程度細かくしていただければと思う。
- ・地方の駅に行くのと段差の大きい駅もあり驚く。それを踏まえて、段差などの情報がわかれば、自分で判断ができるのではと考えている。
- ・現在、国交省で「東京都心部バリアフリー鉄道MAP」を公表しているが、こういったもので、事前に判断できて、危なそうだと感じれば駅員の配置をお願いする、という風になればよい。
- ・一気に全てを解消ではなく、まずは新幹線だけというように、やれることからやっていくということをお願いしたい。

<ハード>

- ・車椅子使用者がグループで移動できるようにして欲しい。
- ・電動車椅子やストレッチャー式車椅子など多様な車椅子利用者が車椅子に乗ったまま乗車可能なフリースペースが必要と考えている。
- ・移乗する人や介助者等のための座席についても検討する必要がある。
- ・是非車窓を楽しめるようにして欲しい。
- ・車椅子スペースの増設について、数に関する国際的な基準はないが、スタジアムの基準を踏まえて総座席数の0.5～1%を車椅子スペースとして欲しい。
- ・多目的室は車椅子使用者等にとって使い勝手がよいため、車椅子使用者から希望があれば是非使えるようにして欲しい。
- ・N700系の多目的トイレは今までと比べて非常に使いやすくなっているが、介助者が便座の隣に立つスペースがない。
- ・車椅子スペースについて、指定席だけでなく、自由席、グリーン席へも増設して欲しい。
- ・新たに車両を開発する際には多様な障害者から意見を聞き、反映して欲しい。
- ・将来的な課題として、ホームと車両の段差と隙間について新幹線でも解消して欲しい。
- ・WGで決定したことについては移動等円滑化基準やガイドラインに反映して欲しい。

○JR各社からの主な意見は以下の通り。

<ソフト>

- ・安全にご旅行いただくということが鉄道事業者の最大の使命と考えており、予約と介助の手配は、介助の要否にかかわらず安全に利用いただく仕組みとして取り組んできた。
- ・利用者の方の介助のため、専門の組織や社内の連絡システムを作ったり、ソフト面でも対策をしてきた。そういったことが、自分たちはこうではなくてはならないということで、自ら制約条件を設けていたかもしれないと感じている。
- ・パラアスリートの方とも交流しているが、たくさんの車椅子の方からも、なんでこんなに時間がかかるのかという意見もいただいている。自分で移動ができるので、気を遣ってもらわなくても構わないという声もいただいている。
- ・車椅子座席を一般にも開放された形でウェブ予約を可能にすることと、車椅子対応座席をブロックして車椅子使用者の方にいつでも座席を用意できるということは両立ができない。どのように両立させるか良案が浮かばないが、内部的にも検討を進めていきたい。
- ・予約と介助の分離をした際には、予約のシステムなどを付随して直す必要があるということも理解をいただきながら改善の方法を考えていければと考えている。
- ・予約と介助の分離について、乗り継ぎ駅や降車駅の状況（ホームと車両の段差隙間がある駅、一人勤務の駅、無人駅等）を全て利用者が把握しているのかということも懸念している。
- ・予約と介助の分離について、今後、在来線も含めた議論になった場合、車両と駅について、都市部と地方部では当たり前とする前提が違う可能性もあり、そういった点についても考える必要がある。

<ハード>

- ・皆さまに快適にご利用いただくという大きな使命を果たしていくために、最適な車椅子スペースについて議論して決定していきたい。
- ・車椅子スペースの具体的な仕様について、一緒に協力をしながら可及的速やかに検討していきたい。
- ・車両については限られた空間であるという制約があるため、様々なご意見をいただきながら知恵を出して議論していきたい。
- ・十分な検証や意見交換を行うとともに、試験車両を用いた実証実験の場も設けながら手戻りなく進めていきたい。
- ・車椅子スペースの数や大きさについて、移動等円滑化基準やガイドラインの改正も視野に入れながら、具体的な内容について検討して欲しい。

○引き続き障害者団体の方等から意見を伺いつつ、バリアフリー対策の方向性について調整していくこととなった。

以上